



|   |     |   |    |    |
|---|-----|---|----|----|
| 理事長   | 所属長 | 管理者   | 主任 | 職員 |
|  |     |  |    |    |

## 復 命 書

(令和 4 年 10 月 6 日作成)

|           |                           |        |
|-----------|---------------------------|--------|
| 職 種 ・ 氏 名 | 看護師                       | 三ツ尾 尚美 |
| 日 時       | 令和 4 年 10 月 5 日 (水) ～ 1 日 |        |
| 場 所       | 東京ビッグサイト                  |        |
| 目 的       | HCR への参加                  |        |

### 旅行用務の概況, 問題点, 結論の整理等

#### 1 研修の概況

2022 年 10 月 5 日(水)～7 日(金)東京ビッグサイト 東展示ホールにて 3 日間、第 49 回国際福祉機器展を開催。今回はリアル展・WEB 展が開催され、WEB 展については 9 月 5 日(月)～11 月 7 日(月)まで開催の予定となっている。

国内外 340 社超の福祉機器関連企業・メーカーが最新機器からハンドメイド品を多数展示・紹介。他多彩なセミナーや特別企画が催された。

#### 2 研修の内容

今回私は、『障害者の暮らしやすい社会に必要な事、今後の新たな可能性の模索』をテーマに参加した。展示品は車椅子を中心に見学。セミナーについては『障害者の権利の実現と新たな課題(野澤和弘氏)』『e-sports を通じた障害者支援と自己実現(堀川氏、吉沢氏)』を受講。それぞれの内容と感想を以下まとめる。

#### 3 研修の内容詳細と感想

##### ①セミナー受講について

『障害者の権利の実現と新たな課題』

野澤和弘氏

##### 【経歴】

1959 年 静岡県熱海市出身

1983 年 早稲田大学法学部卒業

毎日新聞入社。津支局、中部報道をを経て東京社会部へ。

いじめ、ひきこもり、生殖医療(代理母)、児童虐待、障害者虐待、厚生労働省担当。夕刊編集部長、論説委員(社説やコラムを担当)

2019 年 10 月退社

現在は植草学園大学副学長(教授)

一般社団法人スローコミュニケーション代表

毎日新聞客員編集委員

WEB 医療プレミアで「令和の幸福論」を連載中。[\(https://mainichi.jp/premier/health/\)](https://mainichi.jp/premier/health/)

## 【内容】

### ●そもそも障害とはどのようなものか？

以下の人は障害者と言えるのか？

- ・視力が0.01だが、眼鏡をかけて普通に仕事をしている人
- ・片足がないが、パラリンピックで活躍している人
- ・養護学校に通っているが、多彩なアート作品を生み出し、世の中で認められている人
- ・白杖を持っているが、一人で移動し、日常生活を送れている人

### ●病気と障害の違いとは？

病気は『治療』があり、基本的に“治せる”

障害は先天的欠損や異常があり、治らない。あるいは後天的に何らかの原因で障害を抱え、その症状が固定された状態。

### ●日本において法で定められている障害や制度

『身体・精神・知的・発達』に分類される。

2011年に改正障害者基本法が制定される。

これまでの『医学モデル』から『社会モデル』へ考えを改めていくというもの。

※医学モデル：できる・できないに着目し、できない事を治療で治すという考え方。

社会モデル：障害を受け入れ、理解していこうという考え方。

2013年障害者差別解消法が制定される。

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的としているもの。

→制度で制定されているものの、実際世の中では障害者への差別は絶えない。

### ●トリーチャーコリンズ症候群

先天的に顔面の奇形が見られる病気。頬骨の部分的な欠損や小さな下顎が特徴。その結果、呼吸障害や難聴など、さまざまな症状を併発することも珍しくない。基本的に知的障害は伴わないが、一部の患者に精神発達の遅れがみられる。その原因は不明。

顔面の奇形が伴うため、見た目的に差別を受けやすい。『ワンダー 君は太陽』という映画にもなっている。主人公のとある少年(子役は特殊メイクで表現)が顔面を隠すためにいつも宇宙飛行士のような被り物をして登校していたが、徐々に周り打ち解けて、最終的には被り物がなくても生活できるようになっていく感動作。人を見た目で判断する事は良くない事だが、現実問題見た目が他の人と大きく異なると、差別を受けやすいのは事実で、就職や結婚など、あらゆる場面で困難が生じることが多い。

### ●障害を持つ人々を理解する、配慮するという事

定期的にかかれる障害者の催しに論者が参加していた時の事。内一人に聴覚障害があり、毎回通訳を呼んで参加している方がいた。ある日『なぜわたしだけが毎回通訳を連れてきて参加しなければいけないのか。障害にまつわるものなのに、なぜわたしだけが配慮しなくてはいけないのか。』と言う意見が出た。他の参加者はきょとんとしていたが、『多数が少数をどのくらい配慮できるか』という事が大事であり、今後の世の中には必要だと論者は言う。

世の中には様々な障害を持っている人達がいる。身体的欠損の他にも、学習障害や自閉症等内面に障害を持つ人もいる。外見の障害は見えてわかるが、内面の障害は見るだけではなかなか理解ができない。彼らを理解す

るには、認知特性を知る事が重要である。自分や社会の『普通』で判断してはいけない。

例)

- ・いちごの絵を書きなさい。

→一般的にはいちごの絵(イラスト)を書く人が多いだろうが、中には「いちごの絵」と文字で表現する人もいる。

- ・四角の中に氏名を書きなさい。



←そもそも四角じゃないので...

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 野 | 澤 | 和 | 宏 |
|---|---|---|---|

←こう書いてみたり

|          |
|----------|
| 野澤<br>和弘 |
|----------|

←こう書いてみたり

様々な理解の仕方があるため、その多様性を認め、違いを自覚し、理解を促す事が大事。

#### ●民間での取り組み

民間での取り組みの方が進んでいる事例もある。

例)スタジアムの設備

通常、車椅子用の席は数席、トイレも少ない事が多い。

マツダスタジアムでは、

- ・車椅子用の席は 100 以上
- ・多目的トイレは 20 以上、内オストメイトは半数

と言うように、障害者への配慮が手厚い。

→こうした取り組みはビジネス効果をも生む。実際、設備を充実させたことで、車椅子ユーザーの利用の増加等もあり、売上の向上にもつながっている。

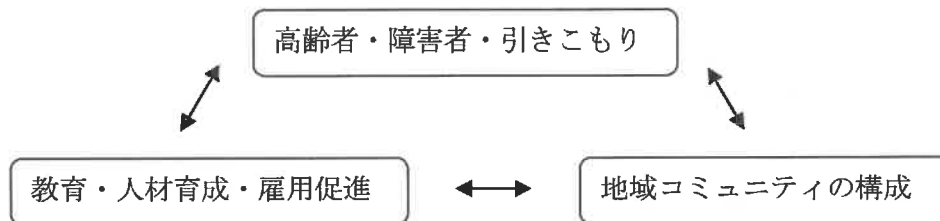
#### ●今後必要な事

多様な障害を知り、その特性を理解し、合理的配慮を進めていく事こそが大事である。

## 『e-sports を通じた障害者支援と自己実現』

星城大学経済学部 堀川宣和氏

edges (運営：日本福祉協議機構) 吉沢純生氏



e-sports は、他のスポーツ同様『ユニバーサルスポーツ』。通常のスポーツと異なるのは、『年代問わず老若男女幅広く楽しむ事のできるスポーツ』である事。そして、ネットを通じた『コミュニケーションツール』となる事。今後の時代においては『デジタル産業』の入り口ともなる世界である。

### ●ゲームと e-sports

一般的に、ゲームは否定的に捉えがちであり、運動能力の低下、学力の低下、社会性の欠如が懸念される事が多い。対して e-sports となると肯定的であり、近年はプロプレイヤーも誕生し世界的にも活躍している。しかし、日本ではまだまだ発展途上であり、プロとアマチュア・趣味としている人(ただ楽しんでいる人)との区別ははっきりしているが、アマチュアと趣味としている人(ただ楽しんでいる人)との区別はあいまいである。プロが活躍する公式試合、世界大会はたくさんあるが、アマチュアを対象とした公式試合はない。地域や行政、企業が主催すれば実現可能であるため、今後に期待したい所。

『e-sports』という言葉は近年よく耳にする事も増え徐々に認知されるようになってきたが、この世界を詳しく知る大人が圧倒的にまだ少ないため、例えば学生が『プロプレイヤーになりたい』と言ってもどうしたらなれるのか、アドバイスできる先生、人が少ないのが現状である。

### ●e-sports で飛躍的に子供は成長できる！e-sports のメリット

・**デジタルリテラシーの向上**：デジタル機器を使用する事で扱いが上手になる。プログラミングへの興味関心につながる。

→地方の DX 化のための人材不足の雇用を創出できる。

・**コミュニケーション能力の向上**：年代を超えた交流から、SNS 等の時代もありネット環境におけるコミュニケーション能力が向上する。ネットを通じ、コミュニティを作る事が容易になる。

→一般的なコミュニケーション+デジタルコミュニケーション双方の能力を養う事でこれからの時代求められる人材となる。

・近年の e-sports はチーム戦が多く、協力プレイが当たり前になってきている。(例えばフォートナイトやモンハンとか)よって、他人と協力プレイをする事でチームワーク(協調性)、リーダーシップの育成にもつながる。

・日本の教育は『決まった答えを出す』事を教える教育スタイルだが、今後求められるのは『自分で考え、答えを出す力』であり、**創造力、マネジメント力、率先力、行動力が重要である**。e-sports ではそうした能力も養う事ができる。

・**グローバル感覚の向上**：ネット環境においては海外の人と関わりを持つ事も多い。そのため、コミュニケーションを図るために『語学力を高めよう』と言う意識が芽生えやすく、勉強にもつながっていく。

・**会話が增える**：ゲームを通じてそれに関連した会話が增える。親がゲームをする家庭であれば一緒に楽しむ事で尚の事増える。引きこもりがなくなったという事例もある程。

## ●地域創生の可能性

とある養護学校では、体育の授業として e-sports を取り入れた事例がある。これにより健常者と障害者のコミュニケーションを図ることにもつながった。

## ●e-sports における不安、課題

### ・ゲーム依存への不安

区切りをつけることができない、日常生活に支障をきたす…。こうした不安があるのも事実である。

これを解消するためには、

- 1.コントロール力を身に着ける：生活習慣の指導(食事の時間、寝る時間、起きる時間の設定)
- 2.優先順位：ゲーム以外の興味付け、様々な刺激を与えることで、ゲームが最優先と言う状態から脱する。
- 3.人間関係の構築：ゲームによって現実の人間関係構築ができない状態となると、カウンセリングが必要であり、人格的にはそもそも向いていない可能性が高い。

## ●edges という団体について

e-sports をするのは勧めるが、外の世界にも出てコミュニケーションを取ったり、自分の将来を考えられるような居場所づくりをサポートする団体。ぜひ活用してほしい。

### 【セミナーを受講しての感想】

日本においては、昔と比べると障害者を支援する制度の制定やサービスの充実化も進んできてはいるものの、暮らしにくさを訴える声はまだまだ絶えないように思う。障害者に関わらずではあるが(例えば高齢者だったり子供だったり)、社会的弱者として扱われやすく、虐待となりニュースでも取り沙汰されているのも時折目にする。中にはスポーツを通じてパラリンピックで活躍している者もいれば、自身の体験を通じて社会に情報を発信しているような著名人もいるものの、障害者でも健常者でも暮らしやすく、同じように社会の中で活躍できるような世の中にはまだまだ課題も多くあるように思う。今回セミナーを受講し、感じたこととしては、国の法制度の制定も大事ではあるが、それ以上に民間での取り組みや、個人の意識の変容が重要なのだと感じた。自分の『普通』で考えるのではなく、どれだけ他の障害特性を理解できるか、配慮するか、そしてその配慮をより多くの方が考えられるようになると、誰しもが平等に過ごせる世の中になっていくのだろうと思う。訪問看護に携わる中で、障害を持ちながら暮らす利用者も多くいる。それぞれの特性を考えつつ、よりよい生活を送るにはどう支援したらよいか、そういった意識を絶やさず関わりを持っていきたいと改めて思った。

近年ではバーチャル世界の発展が目覚ましく、『メタバース』という言葉も聞かれるようになった。e-sports はまさにメタバース技術が詰まっており、『あつまれ森のどうぶつ』や『マイクラフト』などはまさにメタバースの世界と言える。今回 e-sports に関するセミナーを受け、今後様々な可能性を秘めている業界である事を認識できた。障害の有無に関わらず、平等に楽しむ事のできる仮想世界。現に利用者の中にもオンラインゲームを友人と楽しんでいる方もいる。障害があり、一人では自由に外に出ることができなくても、他者とのコミュニケーションを取る機会がなかなかなくても、e-sports の世界ではそのコミュニケーションの場を作り出す事も、仮想世界を自由に行き来する事も可能にしている。ゲーム依存への懸念や現実世界に馴染めないなどの不安はあるものの、逆に実際に会ってみたい、現実世界との違いを楽しむ等のきっかけから外に出る機会にもなればいいなと私は思う。そのために、e-sports を現実世界の中で楽しめるような、地域の中での催しがあったり、サークルがあったり、そうしたものが増えるとより多くの方が同じように楽しめるのではないかと思った。一つ思う事は、中には身体の動きの制限や手の変形等でコントローラーを操作できない、あるいはできない操作があったりする場合もあるため、コントローラーの補助具が出てきたりするとより幅広い層のユーザ

一が生まれ、大きな経済効果をももたらせるのではないかとも思うし、障害者でもプロプレイヤーになる事も可能かもしれないと思った。

## ②展示品見学について

※資料等別紙参照

### 【展示品に対しての感想】

様々な機能を有した車椅子が数多く展示されており、それぞれ非常に考えられた物になっていると感じた。今まで、車椅子だから『行けない』『できない』という場面がたくさんあったと思うが、今回展示品を見て、そういった『行けない』『できない』が『行ける』『できる』に変わってきているのだと驚かされた。今の車椅子は使用用途に応じて機能が全く異なり、デザイン性も高くなっている。車椅子で山などの悪路も難なく乗り越えて移動できる、キャンプもできる…そんな車椅子があったり、屋内の家具に溶け込むような木材使用の美しい車椅子があったり、高い所に手が届き、低くして床にそのまま移れたりできるような昇降機能付き車椅子があったり…。一番なるほど、と感じたのは、MiKiの電動車椅子。電動車椅子と言うと、これまで自分で操作して扱う印象が強かったが、介助型と言うのは目にすることがなかった。介助者に優しい設計になっており、車椅子自体は15kg(ちょうど小学校低学年の息子の自転車と同じくらい)と軽量で坂道も難なく進める。下り坂を後ろ向きに降りていて手を離したとしても安全ブレーキがかかる仕様になっている。これなら体格の小さな介助者でも自分より大きな体格の人を不安なく移動介助ができ、負担も減ると思った。

これまで車椅子ユーザーが過ごしやすく生活するには、バリアフリー化等、環境を変えていくべきという考えがあったが、数々の展示品を見ると、どんな環境でも車椅子で行けるような工夫が凝らされており、車椅子自体を改良する視点もあるのだと気づかされた。こうした高機能な車椅子がどんどん出てくることで、車椅子だからとこもりがちだった人たちが、気軽に外に出ていけるようになれば、より満足度の高い生活を送れるようになると思う。今後訪問看護に携わる上で、どんな福祉用具があるのか、知識として知っておくことは大事であり、定期的にチェックして行ければと思う。

新時代!  
新時代.

|     |     |     |    |    |
|-----|-----|-----|----|----|
| 理事長 | 所属長 | 管理者 | 主任 | 職員 |
|     |     |     |    |    |

## 復命書 (令和4年10月10日作成)

|       |                          |       |
|-------|--------------------------|-------|
| 職種・氏名 | ゆきよし訪問看護ステーション           | 坪川 祥子 |
| 日時    | 令和4年10月7日(金) 10:00~16:00 |       |
| 場所    | 東京ビックサイト                 |       |
| 目的    | 第49回 国際福祉機器展 H.C.R. 2023 |       |

### 旅行用務の概況, 問題点, 結論の整理等

#### 1 研修の概況

在宅看護、介護に役立てられるような福祉機器やケア用品を実際に確かめ、今後の業務に役立てる。

#### 2 研修の内容・所見

##### ◎製品について

##### ①BD 女性用体外式カテーテル

陰部に添わせるように装着するタイプの尿器となっている。陰部に当たる部分は柔らかいガーゼになっており、ガーゼ部分より尿を吸収する。カテーテルは吸引機と繋がっており、使用時は常に低圧持続吸引をかけることで、陰部に当たっているガーゼ部分より尿を吸引できる仕組みになっている。陰部に挟み込むように当てるため、密着し後ろに尿がつたうことはないとのこと。また、普通に寝返りをする分にはカテーテルの先がずれることはないことが検証されている。褥瘡がある方に使用することで、創部が汚染することなく悪化予防になると考えられる。カテーテルの先端部分は安全面を考慮し、8~12時間毎の交換が必要。カテーテル、吸引ボトルは消耗品のため購入になり、吸引機は介護保険でレンタルが可能とのこと。

##### ②持田ヘルスケア株式会社 持田製薬グループ コラーージュフルフル

抗真菌成分のミコナゾール硝酸塩(カビ増殖の抑制)と殺菌成分(細菌の増殖を抑制)がダブル配合されている石鹸。低刺激のため、皮膚が脆弱な方でも使用可能。抗菌作用については、すすいだ後も皮膚にミコナゾール硝酸塩が残存し、抗真菌活性が期待できる。おむつ交換時だけでなく、ストマ交換時やフットケアの際の洗浄にも有効。

##### ③株式会社サナス

###### ・こなあめ

カロリー補給食品であり、食事や飲み物に混ぜるタイプ。こなあめと書いてあるが甘味は少なく摂取時の違和感があまりない。かけるだけなので手軽に摂取が可能。大さじすりきり1杯=29Kcalで、使用上限なし。1kgで756円とコスパもそこまで悪くない。栄養補助食品は甘いものが多いため、甘いものが苦手な方にはいいと思われる。

###### ・サナスファイバー

水溶性食物繊維。普段の食事に混ぜるだけで食物繊維を摂取することができる。小さじ2杯でレタス1個分の食物繊維が摂れる。普段食事摂取量が少ない方で食物繊維を摂りたい方等に有効だと考えられる。炒め物や煮物など加熱料理にも使用可能。1日あたり5~10g程度を数回に分けて摂取する。

#### ④sinto Aiserv 排泄検知システム

排泄センサーを不織布袋に入れておむつ内部に装着すると、排泄（便）があった場合に端末に通知が届くシステム。匂いセンサーが反応するようになっており、利用者の便の特徴に合わせて感度調整も可能。通知から記録まで専用アプリで簡単に操作することができ、排泄状況の記録も可能。センサーを使用することで、長時間汚染してしまうという状況をなくすことができ、利用者の不快感軽減や褥瘡悪化の予防に有効。主に施設での利用を考えて作られている製品。

#### ⑤TECHNOS くすりコール・ライト

服薬タイミングを知らせて飲み忘れを防止するお薬カレンダー。薬を1週間分セットし、内服時間を設定する（1時間単位で設定可能）。設定した時間にLDEライトとアラーム音で服薬を知らせてくれる。薬を取り出したら停止ボタンでアラームを止める作業が必要。もしアラームを止め忘れてしまうと、2時間で自動的に止まるようになっている。服薬見守りサービスに加入すると、携帯にメールで内服状況の通知がきて、自動的に記録される。音で知らせてくれるため内服忘れがある方には有効だが、難聴の方やボタンを押せない方には利用が難しい。今後介護保険で利用が可能になると考えられているが、現在は購入のみ対応。

#### ⑥SAKAE

##### ・スマイルパーム

シリンジの押し子をサポートする用品。シリンジで食事や栄養剤の注入を行う際に、『手が痛い』『疲れる』といった負担を軽減するためのもの。押し子部分が広くなり、手の痛みはなく押しやすい。11月より発売の予定にしており、サンプルがあるため使いたい方がいればお声がけください。

##### ・スマイルスプーン

摂食嚥下をサポートするスプーン。開口障害や食べ物を口の中に入れることが困難な方、下の動きや口唇閉鎖が不十分でスプーンを抜く際に入れたものが口から出てしまう方などのために造られた製品。スプーンに押し子がついており、適切な位置に食べ物をのせることができる。

#### ⑦ピジョン株式会社 液体とろみ

液体タイプのためダマにならずにとろみをつけることができる。炭酸やジュース、加熱したものにも使用可能。コスパがあまりよくないため、基本は粉末タイプを使用し、ジュース等の時だけ液体タイプを使うなど使い分けるとよいかもかもしれない。

#### ◎セミナーについて

##### ①障害のある人・高齢の人へのオンラインサポートや3Dプリンターによる地域支援

多様なニーズに個別に対応するためには、選定⇒調整⇒制作⇒改造という工程が必要となる。個別性というメリットがある反面、1点ものになるためノウハウを受け継ぎにくいというデメリットがある。また、担当者が代わってしまうと、一から情報収集しアセスメントを行うという手間が発生し、変化に対応する継続的な支援が難しいという問題点がある。そこで3Dプリンターを使用することで、データを残すことができ、担当者が代わっても継続的に同じ製品を制作することができる。利用者に状態変化が起きたとしても、題材となるデータを元に、今の状態に合わせた物に造り変えることも可能。3Dプリンターを持っていればデータを送り、離れた場所でも作成が可能になるため、幅広いコミュニティでの使用が可能となる。



## ② 自助具



自助具とは身体が不自由な人が、日常生活動作をより便利により容易にできるように工夫された道具。自助具を活用するには、『できないことは？ 不便なことは？ 困難は？』と自分で気づくことから始まる。作成する側は使う人の立場になり、観察し分析した後に、何が使えるかを判断する必要がある。自助具の中でも、使えない自助具（大きい、重い、機能が複雑、危険なもの（毒性・使い方）、使いたくない自助具（かっこうが悪い、使う人の感性が考えられていない））がある。最近は市販品も増えてきており、ユニバーサルデザインの日用品が増えているため、まずは使えるものがあれば提案してみる。自助具を作成するなかで、『個別性』を出すことで、長く利用者の方に使ってもらえることができる。また、自助具を使うことで誰かにしてあげられるという喜びを感じることができる。

## 3 感想

この度、初めて HCR に参加させていただきました。私は、在宅介護で使用できるケア用品などを中心に見て回りました。利用者の方にケア用品を紹介する時は主にカタログやネットで調べてお話しすることが多いですが、今回は直に見て話を聞くことができたのでとても参考になりました。個別性に合わせた商品も数多く展示されていました。同じような製品でも特徴が違うものも多く、その人にあったものを選定するには情報収集やアセスメントをしっかりとやる必要があると改めて感じることができました。現在訪問させていただいている利用者様の生活スタイルを再度見直し、提案できるものがあればお話ししていきたいと思っています。また、とろみ剤や栄養補助食品、コラーゲンジュエルなどサンプル品も何個か貰ってきたため、気になる方がいればお声がけください。

在宅サービスでは『その人に合うもの』が重要だと考えています。セミナーでお話があったように、個別性を出すために自助具などを制作すると一点物になってしまう傾向にあります。今はまだ 3D プリンターは当事業所にはありませんが、リハビリの方達もよく自助具等を作成しているようなので、今後導入できると作成の幅が広がるのではないかと思います。

福祉機器、選び方・使い方の副読書を購入したので、興味がある方はお声がけください。

|   |     |   |    |    |
|---|-----|---|----|----|
| 理事長   | 所属長 | 管理者   | 主任 | 職員 |
|  |     |  |    |    |

## 復 命 書

(令和 4年 10月 11日作成)

|           |                            |      |
|-----------|----------------------------|------|
| 職 種 ・ 氏 名 | 看 護 師                      | 坂井奈美 |
| 日 時       | 令和 4年 10月 6日 ( 木 ) ~ 日 ( ) |      |
| 場 所       | 東京ビッグサイト                   |      |
| 目 的       | 国際福祉機器展への参加                |      |

### 旅行用務の概況, 問題点, 結論の整理等

#### 1 研修の概況

##### ・セミナー聴講

「フレイル予防の新たな動向～人生100年時代の社会を見据えて～」

講師；東京大学 高齢社会総合研究機構 機構長・未来ビジョン研究センター教授 飯島勝也 先生

##### ・福祉機器展示の見学

#### 2 研修の内容・所見

〔セミナー〕超高齢社会時代における健康長寿とは何かを考える。高齢者の定義はあるが、現代は元気で働きたい高齢者もおり社会の担い手となりうる。幸せとは何か、何が足りないかを考え動いていくことが大事。漠然とでも楽しみを見出し価値を感じられる、日々の充実につなげていけるような社会をめざす。フレイル予防など具体を通し、専門職は根拠を基に情報提供できる引き出しを多く持ち関わるのが求められる。フレイル予防の具体としては、栄養面、食事や口腔機能など大まかだけではなく、実際何をどのくらい必要か等。身体活動では運動だけでなく非運動性身体活動として地域活動等。社会参加や人との繋がりも含まれる。フレイル予防だけでなく、筋力低下サルコペニアへの対応も求められる。歩くことの必要性は知られているがそれだけでは不足であり、筋力運動も必要となる。心地よさを感じ活動を継続することで、幸福長寿実現につなげていくことが求められる。地域の場ではこれらのきっかけづくり、場の提供を行ない、地域の繋がり作りがフレイル予防活動となる。QOLの3つのlife、生きがい、暮らし、命。治し支える医療として病気を治す治療、生活の充実、人生の満足という視点を持つ。

〔福祉機器〕・マットレス、入浴介助機器関連を中心に見てきました。

##### ・マイクロクライメイトネクスアイビーという耐圧分散式エアマットレス (株式会社ケープ)

頭、身体、足と部位ごとにエアマットの構造が異なる。背上げ時にマットレスの圧が変動し、ズレ防止を図れ背上げ時間表示が出るため食後後どのくらいの時間何度で上げているかを客観的に把握できる。離床用に1時間端坐位姿勢が安定してとれるように部分的にマットが硬く保持される機能がある。

⇒エアマットの除圧・体圧分散だけでなく、安全に離床リハビリしやすいように動きやすさも考えられている。挙上角度や挙上時間が表示されることで客観的に把握しやすい。

##### ・床ずれナース (黒田株式会社)

体圧分散・蒸れ軽減により褥瘡予防が図れる機能。自宅の洗濯機での洗濯可能。褥瘡できた場合のエアマットやウレタンマットとの併用可能。メッシュ状で吸放湿に優れている。大小サイズ展開あり。

⇒褥瘡予防としての効果あり。現在のマットに追加の形で利用。清潔に使いやすい。

・マスカットポール (DIPPER ホクメイ)

床から天井にかけて設置するつかまるためのポール。設置が容易だが横ズレに強く設置後安定。支え、立ち上がり、浴槽出入りなどに使え、パーツ追加すると握り部分もより安定図れる。

⇒自宅の浴室に簡単に設置可能。自由に位置を合わせ設置できる。つかまりバーも個々に合わせ使いやすいように設置可能。安全に浴槽出入りや立ち上がりができる。

・バスリフト (TOTO)

自宅の浴槽に簡単に設置できる。リモコン操作で座面が昇降し浴槽に安全に入れる。充電式、1回の充電で上下の昇降が10往復可能。

⇒浴槽内への出入りが困難な場合も座位がとれば容易に湯舟に浸かることができる。

・温浴シャワーベンチシリーズ (積水ホームテクノ) (安寿アロン化成)

家庭のシャワーヘッドとの交換で容易に設置可能。シャワーが多方向から浴びることができ、入浴に近い感覚が得られる。

⇒浴槽を用いずとも、介助下で椅子に移ることが出来れば全身に一度にシャワーを浴びることが出来る。

[聴導犬のデモンストレーション] 聴導犬は必要な音が鳴ったことを相手に伝え、その音の場に相手があるまで繰り返し誘導する。仕事できた都度ご褒美として餌を与え、犬のモチベーション維持を図っている。

### 3 感想

セミナー聴講させていただき、超高齢化社会だからこそその「幸福長寿」というものを考えさせられました。日々の生活をおくる上で、ただの長寿ではなく、健康更には幸福を考えるということは漠然としていますが、何か楽しみをもって過ごすことはとても重要だと思いました。楽しみを少しでも持ちつつ続けられる何かを考え、日々過ごしていきたいです。そして関わる利用者さんの生活もそういった視点で少しでも見れたら、と感じました。

福祉機器や介護機器など多くの展示を目にし、実際に使用方法などに触れることができました。パンフレット見ただけでは中々イメージがわかなかったものも、実際に目にすることで分かりやすかったです。ベッドや移乗機器も体験できるようになっており、様々な人が知ることのできる貴重な場と感じました。車椅子で来場されている方も多く、展示物を見るだけでなく必要性を感じ来場される方が多いことを感じました。

特殊浴槽や移乗、車など関わるのが少ない分野も知ることが出来ました。機能・外見など使う人の立場でのよりよいものがつくられていると感じました。同じようなものも、細かなこだわりが詰まっている、よりよいものができている。自分の知らないことがあまりにも多く、刺激を受ける機会になったと思います。今回の経験をもとに、日々の関りの中で在宅での利用者様の生活をより安全に、よりその人らしく生活できるような援助に繋げていけたら、と思います。

介護機器を知る、利用されている方たちを知る貴重な機会をいただきありがとうございました。

ありがとうございます  
HCP 18 当部 事務局

| 理事長 | 所長 | 役職者 | 職員 | 作成者 |
|-----|----|-----|----|-----|
|     |    |     |    |     |

作成日：令和4年10月7日

| 復命書   |                           |    |      |
|---|---------------------------|----|------|
| 事業所名  | ショートステイ・ゆきよし とやの          | 氏名 | 桑原 至 |
| 勉強会・研修名   | 第49回 国際福祉機器展              |    |      |
| 講師・担当者  |                           |    |      |
| 開催日時  | 令和4年10月5日～7日 7日に参加        |    |      |
| 会場  | 東京ビッグサイト 東展示ホール           |    |      |
| 目的  | 福祉・介護・リハビリヘルスケア等の最新の情報を得る |    |      |
| <p>1. 所見</p> <p>今回、リハビリ関連と褥瘡の予防のためのベッド用のマットレスや車椅子用のクッション関連について重点的に見学した。</p> <p>リハビリに関しては、一時多かったマシン関連が、最新だが健常者用で、1ブースしかなかった。大きなテレビを使って行う体操等のソフト関連が多くあり、一つの機器で180種類の運動やレクリエーションが行えるものや、カラオケ関連の会社の製品は、音楽を使った体操はもちろん、歌を歌ったり、リズムをとったり、多人数でゲームをしたりと、こちらも一つのソフトで沢山の種類のアクティビティが行えるものであった。</p> <p>褥瘡予防に関しては、マットレスが電動のエアーマットタイプの最新のものがいくつかあったが、電動ではないタイプが多くあり、ウレタンフォーム等で、しかも価格が割安であった。実際に効果が高いのであれば、購入して効果を確かめたいと思った。</p> <p>車椅子用も含むクッション関連は、これも一時多かったゲルタイプは少なく、ウレタンフォーム等の物が多いと感じた。</p> <p>あるマットレスのブースでは、担当者が「お客様が購入後に思っていたものと違う」とならないように、最近はデモ機の貸し出しをしていますとの話があった。以前と比較すると、非常に良心的になったと思った。</p> <p>上記以外では、記録管理システムソフト等で、特に「LIFEに対応しています」と謳ったものや、スマートフォンを使用した遠隔操作や、「LINE WORKS を使用しています」といった IT 関連の物がやはり多いと感じた。</p> <p>今回、国際福祉機器展に参加させていただきまして有難う御座いました。</p> |                           |    |      |

※両面印刷禁止

| 理事長   | 管理部長       | 所長         | 副所長 | 支援員等 |
|---|------------|------------|-----|------|
| <b>復命書</b> (令和4年10月12日作成)   |            |            |     |      |
| 旅行者   | 職名・氏名      | 支援員 鈴木 いづみ |     |      |
| 日時  | 令和4年10月5日  |            |     |      |
| 場所  | 東京ビッグサイト   |            |     |      |
| 目的  | 福祉機器の見学・体験 |            |     |      |
| <b>旅行用務の概要、問題点、結論の整理等</b>   |            |            |     |      |
| 1. セミナー・概要  |            |            |     |      |
| 11:00~12:00 車いす<br>公益財団法人 武蔵野市福祉公社<br>作業療法士 堀家 京子 氏   |            |            |     |      |
| 2. 感想   |            |            |     |      |
| <p>今回福祉職員となって初めて展示会に参加させて頂きました。全てが初めての事で不安でいっぱいでしたが、到着後最初に上記セミナーに参加致しました。福祉職員としてまずマスターすべき事と思い、機能の説明や用途を実際に見ながら詳しく聞くことができ、より深く学ぶことができました。セミナー以外にも確認したい展示ブースを探しながら様々な最先端の福祉機器を目の当たりにし驚きの連続でした。会場はとても広くてすべてを見たかったですが、ブースの中のひとつで「TCスキャン：トビー&amp;クレークト with スキャン（重度障害者用意思伝達装置）」を実際に体験してみました。電源 ON ですぐに文字盤が起動することで操作回数を減らしてくれる上に、身体状況に合わせてスイッチから視線入力まで、多種多様な機器に対応してくれます。体験してみても最新の機械はとても反応が早く目が追い付かずどこを見ているのか分からなくなるくらいでしたが調整を重ねて自分に合った使い方が出来るのでこれを利用することにより利用者の生活の質がどんどん上がるのではないかと感じました。</p> <p>この度はこんな貴重な経験をさせていただき心から感謝申し上げます。<br/>本当にありがとうございました。</p> |            |            |     |      |

|     |      |    |     |     |      |
|-----|------|----|-----|-----|------|
| 理事長 | 管理部長 | 所長 | 副所長 | 役職者 | 支援員等 |
|     |      |    |     |     |      |

## 復 命 書

(令和 4 年 10 月 9 日作成)

|     |                          |          |
|-----|--------------------------|----------|
| 旅行者 | 職名・氏名                    | 支援員 永井 泉 |
| 日時  | 令和 4 年 10 月 5 日 (水)      |          |
| 場所  | 東京ビックサイト                 |          |
| 目的  | 第 49 回国際福祉機器展 (H. C. R.) |          |

### 1 説明会・見学会の概要

別添資料、別添写真を参照。

### 2 まとめ及び所見

新型コロナ渦の影響により 2020 年は開催が中止となったが、昨年からリアル展と Web 展との同時開催で行われた。今年はリアル展で企業の説明を聞きながら、情報を得て当センターでも参考になるような福祉機器を見させていただいた。私は主に記録管理システムやコミュニケーション機器などを中心に見て回った。

今回の福祉機器展で、特に興味・関心を持った福祉機器は『Blue Ocean Note (ブルーオーシャンノート)』という製品である。この製品は高齢者介護・障がい者支援の記録業務に特化した、インターネット経由で使用するクラウド型ケア記録管理システムである。

Blue Ocean Note (ブルーオーシャンノート) の機能を、例として 4 つ挙げさせていただく。

- ① 実際の帳票様式に直接的な操作で入力することができるため、パソコン操作が苦手な人でも簡単に記録ができる、
- ② フェイスシートなどの基本情報についても、ワンクリックで入力ができるため、面談をしながらの入力も可能。※写真 1
- ③ 業務の流れに合わせて同時に行うケア項目をまとめて入力することも可能であり、日々の健康チェックなどの入力も簡単に操作できる。※写真 2
- ④ 連絡ノートや業務日誌など、必要な帳票に自動転記できる。修正作業も簡単にできるため、言葉表現の修正や不必要な情報を消去した上で、連絡ノートとして家族へお渡しすることができる。※写真 3

利用者と関わりながら業務をこなす必要であるが、現在限られた人員体制の中でより良いサービスを提供するためには効率性が必要だと日々感じている。こういったシステムは業務負担の軽減や効率化が期待でき、利用者との関わりをより増やせることに繋がるのではないかと感じた。私自身パソコン操作が苦手なこともあり、このようなシステムがあれば、パソコンに対する知識が乏しくても簡単に操作できると感じた。現在当センターで活用している SMART CARE MOVE にも類似のような機能があれば、活用するべきであると感じた。この製品以外でも音声のみで入力できるケア記録管理システムもあり、支援をしながら記録したり、職員への伝達事項も録音ができたりすることもでき、時代に応じて福祉機器も発展しているのだと改めて感じる事ができた。

本研修に参加させていただき、ありがとうございました。